

アウトリーチ

通信



第7号
2007年5月25日発行
年4回発行
神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター
〒662-8505
西宮市岡田山4-1
電話・FAX: 0798-51-8584

特集・卒業生の活動報告



二〇〇一年度後期に開始したアウトリーチの授業も七年目を迎え、この三月には履修生の五期生が卒業しました。また二〇〇五年十月開設のアウトリーチ・センターにもしだいに多くの演奏依頼が寄せられるようになってきました。

そこで本号では、センターの紹介による卒業生の活動例を三つと、卒業後アメリカ留学でさらにアウトリーチを学んだ志伊理絵さんの活動の様子をご紹介します。

(津上智実)

◎ サンシティ宝塚



二〇〇六年三月十八日(土)、高齢者マンション・サンシティ宝塚(宝塚市宝梅)にて、入居を検討されている方のための見学会の一環としてコンサートが行われ、大学院修了の福島邦子(ヴァイオリン)、服部愛(ピアノ)が出演しました。

◎ 住友病院

会場はグラランドピアノがある立派なホールで、温かい雰囲気の中、気持ちよく演奏させていただきました。リスト《愛の夢 第三番》、モンティ《チャルダッシュ》などのクラシックの名曲から季節の歌のメドレーまで、幅広い一時間のプログラムで、皆様に楽しんでいただけたようでした。

二〇〇六年七月十四日(金)、住友病院(大阪市北区)ロビーコンサート第十八回として、『世界・音楽の旅』と題したコンサートを行いました。メンバーはアウトリーチ一期生の絹田朋子(フルート)、松川峰子(ピアノ)、そして山田愛子(声乐)の三名で、イタリアから始まり十カ国を巡る一時間ほどの音楽の旅としました。クラシ



ックからデイズニーや民謡までのプログラムで、最後には日本の歌を尺八も交えて演奏しました。アンコールでは「ふるさと」を皆さんと一緒に合唱し、和やかな雰囲気うちにコンサートを終えました。ゆったりとしたすてきな空間で、演奏者の私たちも癒されたひとときでした。



◎ 酒心館バイオカフェ



二〇〇七年一月二十七日(土)、くらしとバイオプラザ主催のバイオカフェが神戸酒心館(神戸市東灘区)で行われ、田原口安代(ヴァイオリン)、中村公美(コントラバス)の二名が出演しました。酒心館ホールは木造で雰囲気の良いすてきな会場で、弦楽器での演奏には響きもびつたりです。ヴァイオリンとコントラバスでベートーヴェン《メヌエツト》、文部省唱歌《冬の夜》、グリエール《二重奏組曲》より《ガヴオツト》と、名曲からこの編成のために書かれた作品までを集め、楽器の説明なども交えて演奏しました。

十五分ほどのプログラムでしたがめずらしい楽器の組み合わせにみなさん興味津々といった様子で、演奏も

お話も熱心に聴いてくださいました。私たちも演奏後はバイオのお話を聞いて共に勉強させていただきました、有意義な時間をすごしました。

アウトリーチとの出会い

二〇〇四年卒業 打楽器専攻

志伊 理絵

神戸女学院大学三年次よりアウトリーチを履修し、アウトリーチという活動にかかわり始めて早五年が経ちました。初めは「アウトリーチ」という言葉の意味さえわかりませんでした。が、授業ではかけがえのない仲間を得ることができ、子どものためのコンサートや学校訪問では、演奏だけでなく、裏方進行の役割、お客様の要望に沿ったプログラム作り、授業プランの立て方、集客方法など、書き切れないほどのことを学びました。

大学を卒業後、アメリカのUMBC(メリーランド州立大学ボルティモア・カウンティ校)に留学し、専門のパーカッションに加えてアウトリーチを履修しました。当初、英語も全く通じない中、学生同士の話の内容も解

らないのに、なぜかコンサートの裏方進行やプログラム構成などの話になると自然に会話の輪に参加できたのは、女学院時代の授業のおかげと痛感しました。留学生の私に、アウトリーチ担当の先生が十分すぎるぐらいの配慮を下さったのも事実です。

代曲を聞けるのだろうか? という私の疑問に反して、アンケートには「現代曲がよかった」「音が喧嘩しているみたいで楽しかった」などと記されていて驚きました。本物の演奏には子どもたちは必ず共感してくれると確信しました。

学外では私

アメリカの授業は理論(子どもの心理学)や絵画を学び、後に演奏という構成でした。音楽を他の芸術と連続したものとして学んで、驚きの連続でした。一枚の絵を使った授業では、絵のスライドを見て、「この絵をどのように感じますか?」どのような場面なのか? いつの時代? なぜここでこの色を使用しているのか? この絵にどの曲が似合うのか? この絵を一色で例えるならば何色?」などと様々な討論を行い、最後にその絵の作者と題名、時代背景を知ること、絵と関連の情報鮮明に記憶に残りました。インパクトの強い題材と参加型の授業がプログラムの成功の鍵になり、たった一つの題材でも組み立て方次第で十分なプログラムができることを学びました。



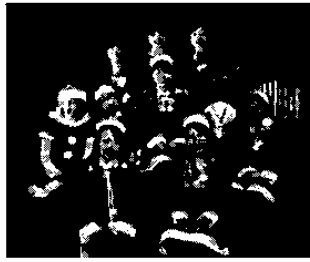
立の養護学校とメリーランド州の公立小学校で演奏する機会があり、ギター、トロンボーンと打楽器の四人組で授業を行いました。打楽器は音階の出

また小学生を大学に招いて演奏会を行った際、子ども受けする曲に加えて、難解な現代曲も数曲プログラムに組み込まれていました。「子どもは現

る木琴などは使用せず、タイヤのホイールをドラム代わりにしたり、トライアングルやカウベルに水を入れて演奏したりと、身近な物を使った音を中心に演奏しました。この課外授業では、子どもたちに学んでもらう一つのポイントをしっかりと見据えてプログラムを構成することのむずかしさを学びました。ただ「よかった・楽しかった」という感想ではなく、「水によつ

て音が変わることが楽しかった」等の回答を得ることができればそのプログラムは成功だと教授に教わりました。

神戸女学院で学び、さらにアメリカで学ぶことのできたアウトリーチを今後も続けたいと、帰国後「音楽工房」という会を立ち上げました。昨年十二月には、大学時代のアウトリーチメンバーに他大学出身の演奏者を加えて、神戸北野工房で子どものためのクリスマス・コンサートを開催しました。これからも地域密着型のアウトリーチをゆつくり一歩、一歩進めていきたいと思っています。この活動に興味を持って下さる演奏者の皆様方と共に、これからも音楽に携わることのできる環境をめざして努力していきたいと思えます。



♪ 音楽工房、八月十二日(日)のコンサート情報は関西元気文化圏のホームページをご覧ください。
<http://bunka-ryoku.goo.ne.jp/bunka%2Dryoku/kansai/brgksDetail.asp?ID=7018>

アウトリーチ実習報告

西宮市立越木岩幼稚園



三月八日(木)、西宮市立越木岩幼稚園(西宮市美作町六番十号)にて幼稚園コンサートを行いました(音楽・高林保子、海老原ゆかり/フルート・片岡朗子/ピアノ・白坂亜紀)。プログラムは《春がきた》《春の小川》《どこかで春が》などの親しみやすい日本唱歌に加え、《熊蜂の飛行》《子犬のワルツ》といった園児にも聞きやすいクラシック等幅広く演奏しました。

このメンバーでの幼稚園アウトリーチ実習も四回目となり、落ち着いて演奏できたので、四歳児と五歳児の反応の違いを感じることもできました。演奏中、曲を口ずさんでくれる子もいて、「一緒に歌いましょう」のコーナーでは元気に大合唱! 歌う楽しさを

よく知っている子どもたちだと感じました。アンコール曲《さんぽ》では、今までの経験から手書きの絵を見せる工夫をしたところ、とても盛り上がりました。

今回は演奏者の立ち位置が子どもたちから少し遠かったため、次回からはできるだけ近くに立つよう気をつけたいと思います。(高林保子・記)

宝塚市立すみれが丘小学校

三月十五日(木)、宝塚市立すみれが丘小学校(宝塚市すみれが丘一丁目五番一号、音楽教諭・松原美保先生)にて小学校三年生の全四クラスを対象に実習を行いました(ヴァイオリン・東瑛子/フルート・片岡朗子/ピアノ・今



中百合)。

今回は音楽室に飾られている肖像画の音楽家たちがどんな音楽を書いたのかをテーマに、バッハ、モーツァ

ルト、ベートーヴェン、チャイコフスキー、ドヴォルザーク、プッチーニの六名の作曲家を取り上げました。バッハ《主よ、人の望みの喜びよ》やモーツァルト《ディベルティメント》に加えて、ドヴォルザーク《ユモレスク》、プッチーニ《誰も寝てはならぬ》などテレビやアニメに登場する機会の多い作品も取り上げました。子どもたちの旺盛な好奇心、考えてもみなかったような質問に対して、自分の専門知識や当たり前と捉えていた常識を言葉にする難しさを感じました。

このメンバーでの実習は二回目ですが、「前回よりもまとまってアンサンブルがよくなっている」と松原先生にお褒め頂いたことがうれしく、今後の励みとなりました。フルートの体験コーナーでは子どもたちがうれしさを全身で率直に表すことに感動し、「質の高い音楽を、より多くの人々に届けられる存在になりたい」と強く願うようになってきたのが、なにより収穫でした。

(東瑛子・記)



プロジェクト報告

養護学校プロジェクト

二月二日(金)、九日(金)、十六日(金)の三日間、兵庫県立こやの里養護学校(今春より「こやの里特別支援学校」と改称、紅山修校長、音楽教諭・佐藤啓子先生、香春恵美先生)の小低クラスにて、養護学校プロジェクトの第四～六回を行いました。(二日:川勝さちこ・オルガン、谷優似子・ピアノ、海老原ゆかり、高林保子・声楽 / 九日:川勝さちこ、谷優似子、橋本麻衣・マリンバ / 十六日:川勝さちこ、高林保子、周防彩子・声楽)。このプロジェクトでは養護学校の音楽の授業に加わって、その中のリトミックのコーナー(十分)を担当し、授業の最後に生演奏を一曲披露するという形で取り組んでいます。昨年十一月～十二月に実施した第一～三回で学んだことを生かしながら、今回はリトミックのテーマである「息を合わせて一緒に動く」をレベルアップさせることを目標としました。

第四回の授業では、まず昨年取り上げた「象」「鳥」を使って子どもたちと一緒に動いた上で、新しく「カバ」を加えました。いつものようにカバの絵を見せ、何の動物なのかを子どもたち



ちに問いかけます。子どもたちはすぐに「カバ!」と答えてくれました。早速、カバの動きをみんなでまねてみます。床に座って足を使うという動作を今回初めて取り入れました。カバがあくびをしながら「おはよう」と言うときには足を左右に開き、仲間と遊ぶときには足を上に上げます。その上げる足を左右変えながら、音楽に合わせてみんなが動きました。みんな一生懸命音楽に合わせて動こうと頑張っていました。

この回では、マリンバの演奏をお届けしました(安倍圭子「タンブランパラフレーズ」)。現代曲で、バチの先でマリンバを叩くだけでなく、バチの柄の部分を使ってマリンバを叩いたり、柄同士を「パチツ、パチツ」と音をさせながらぶついたり、特殊な奏法がふんだんに使われています。みんなが普段授業で慣れ親しんでいる木琴とはまた一味違った音色を楽しんでもらいました。今回も体験コーナーを設け、実際にマリンバに触れてもらいました。みんな特大サイズのマリンバに驚きながらも、楽しそうに楽器を叩いていました。



第六回目、とうとう今年度最後の実習です。今までやってきた動物たちに「アライグマ」を加え、手を使ったり

ギルドホール音楽院

「コネクト」視察報告

津上 智実

英国ロンドンのギルドホール音楽院では、地域の子どもたちを巻き込んだ音楽活動「コネクト」をさまざまな形で展開しています。今年二月、ハーフトーム(学期半ばにある一週間の休み)を利用して発表の舞台が二つ持たれましたので、その様子を報告します。

まず二月八日(木)のプロジェクト「グローブタウン(わが町、地球!)」は、地域の五つの学校(小学校四校と中学校一校)の子どもたちと音楽院の修士の学生十八名および教員五名によるコラボレーションで、総勢三百人という大きな舞台でした。事前に四週間にわたって音楽院の学生が学校へ出向き(小学校は週二日五時間、中学校は週一時間半)、基本の共通コンセ

プトをふまえながら、学校毎に自由に創作して準備を進めました。このコンサートは一九七〇年に没したジミー・ヘンドリックスを記念し、風水の四元素「火」「水」「空」「土」を軸に創作するというもので、各グループはこの中の一つを歌や楽器(さらには身振りも含めたグループもありました)で思い思いに集団創作して持ち寄りました。小学校は歌や簡単な楽器での参加者も多く、その中にフルートやトランペットを吹く子ども、オーケストラ楽器やギターなどの学生が混じっています。唯一の中学校からの参加は「グローブバンド」と称し、ヴァイオ



リン七名、ギター五名(内二名は学生)を始め、サククス、トランペット、フルート、ドラムスやシンセサイザーといった顔ぶれで、出番が三回ありました。最初と最後には三百人での全員演奏もあり、各グループの演奏に注意深く耳を傾けながら全体を統轄していく指揮者の力量に感服しました(演奏時間約一時間二十分)。なお「グローブバンド」にはスペインとアイスランドからの参加者も加わっており、三つの国で平行して準備を進め、前日に初めて顔を会わせたとのこと。今年が七年目のプロジェクト「グローブタウン」でも、国際的な広がりを持ったのは今回が初めてとのことでした。

次に二月十六日(金)のコンサートは、ハーフトーム中に行なわれた三日間のワークショップの総仕上げとして最終日に実施されました。一般公募で集まった子どもたち約六十名と学部の三、四年生の学生約三十名の総勢約九十名が十個のグループに分かれ、基本のコンセプト「シグナル」に沿って自由に集団創作して準備を進めました。コンサートでは金管グループの



ファンファールから始まって、全員演奏の後、各グループがその成果を順に披露していきます。弦楽器グループもあれば、パーカッションとギターとチエロ、またハーブとコントラバスとチエロとトランペットといったグループもあります。旋律美を前面に出すグループ、リズムで遊ぶグループ、ジャズ風のグループ、ミニマル・ミュージック風のグループなど音楽的にも多彩です。ある和音に達したら次のグループが引き継ぐと



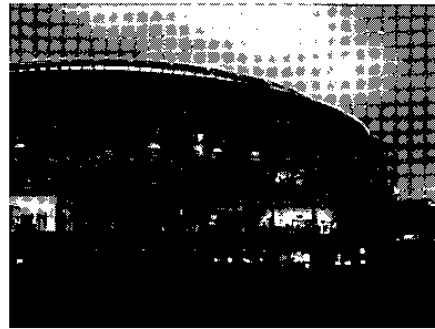
いうルールになっていて、最後は再び全員合奏で締め括りました（演奏時間約五十分）。これは子どもたちにとっては専門の学生と並んで舞台上に立つ絶好の機会ですし、学生たちにとっては卒業後の音楽活動に向けて集団創作の導き方を実践的に学ぶ場となっています。

ギルドホール音楽院のアウトリーチ活動は、このような集団での自由な創作活動の特徴としています。参加者はどんな楽器を持参してもよく、それぞれの自由なアイデアを上手に引き出しながら全体をまとめていくことが学生の課題となります。クラシックの学生もジャズの発想と力量を身につけることが求められます。これは昨年度招聘したジュリアード音楽院のアウトリーチ活動とは大きく異なるもので、クリエイティブ・ミュージックの方向を指し示しています。今年十一月、このギルドホール音楽院からシヨン・グレゴリー先生（プロフェッショナル・デイベロPMENT学科ディレクター）を日本に招聘する予定ですので、どうぞご期待ください。

ベルファースト

ファミリーコンサート視察

絹田 朋子



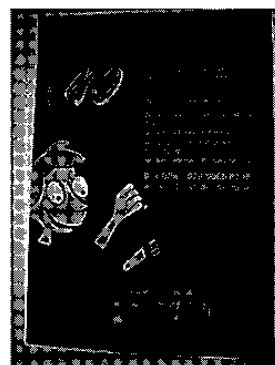
ウォーターフロント・ホール

ベルファーストの中心部にあるウォーターフロント・ホールにて、地元の小学校四校と北アイルランド唯一のプロオーケストラ、アルスター・オーケストラの共演によるファミリーコンサートが開かれました。

ホールのロビーには、出演する子どもたち（各校から約二十名ずつの計八十名）が演奏曲目を題材に書いた絵や作品が飾られて、コンサートへの期待感をぐんぐん引き上げていました。演目は『A Marvellous Medicine（びっく

り薬）』と題され、『チョコレート工場』の秘密』で有名なロアルド・ダール氏の五つの詩に、現代作曲家のブライアン・アーヴィン氏がこの演奏会のために特別に作曲したもので、子どもたちはオーケストラの音楽にのって、歌と振り付けで詩の世界を表現しました。今までファミリーコンサートという、世代を問わずたくさんの聴衆が楽しめる曲が演奏されたり、楽器の体験コーナーがあったりなど、子どもたちが「お客さん」として楽しむ企画が

多いように感じていましたが、こちらはひと味違います。子どもたちが自ら演奏会に向けて積極的に準備をし、プロのオーケストラと協力して一つの舞台を作り上げていると感ぜられました。



プログラム

このコンサート・シリーズはLMN北アイルランド支部設立当初からずっと小さな規模で実験を繰り返し、今回初めて大きなホールで、大編成のオーケストラを率いての本番となったそうです。この試みのおかげで、子どもたちとその家族は、今まで何気なく通り過ぎるだけだった音楽ホールや地元の文化施設を、自分たちの生活の一部として受け入れることができるようになり、行動範囲が広がったと高く評価されていました。

新年度の計画

津上 智実

世界的に暖冬で早かった春の訪れ、新入生を迎えてキャンパスも賑わっていることでしょう。アウトリーチも七年目に入りました。今年度の計画を概観してみましょう。

一、関連授業の開講

今年度も前期に「アートマネジメント」と「リトミック」、後期に「発達心理学入門」を開講します。十一月にはロンドンのギルドホール音楽院からシヨン・グレゴリー先生を招いて一週間のワークショップを行ないます。その一環として、十一月二十三日（金・祝日）に近隣の子どもたちを巻き込んで実践的な学びの機会を持つ予定です。昨年招聘したジュリアード音楽院のエドワード・ビーラウス先生とはまた別の角度からダイナミックな学びの場になることが期待されます。

二、長期プロジェクト

昨年度、小規模ながらも地道によい成果が得られた「養護学校プロジェクト」

ト」(英語の歌とリトミックによる)ひよこプロジェクト」「吹奏楽プロジェクト」について、関係先の協力を得て今年度も継続していく予定です。

三、子どもための

コンサート・シリーズ シリーズ六年目の今年も、四年生が企画・出演する「子どもためのセタコンサート」(七月七日)、弦楽五重奏で弦楽器の魅力をたつぷりと味わって頂く「子どものためのスペシャル・コンサート」(十月二十日)、今春の卒業生が出演する「子どものためのクリスマス・コンサート」(十二月八日)の三回を予定しています。

四、アウトリーチ・センターの

体制強化 アウトリーチ活動の質的・量的な拡大に伴い、フルタイムの職員一名を迎えてより緻密なサポート体制を実現します。

五、卒業生への演奏機会の

供給システム 卒業生への演奏機会の供給システムを構築することは今年度の大きな課題です。演奏の派遣依頼が増大する中、意欲ある若い卒業生たちにそれを

適切な形で供給していくためにはどうしたらよいか、皆様のお知恵をお借りしてぜひよい形で実現したいと考えています。

今年度の活動が学生たちにとって、また地域にとつても実り多いものとなりましょう、皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

スタッフ紹介

新年度を迎え、アウトリーチ・センターのスタッフも顔ぶれが変わりました!

センター開設当初からのスタッフである早野紗矢香(オルガン)、松川峰子(ピアノ)の二名が退職し、三上昌子(声楽)・井本彩子を新しく迎えました。

今年度は、寺澤彩(ハープ)、中村公美(コントラバス)、南香代子(声楽)を合わせた五名でみなさまと音楽の素敵な出会いをお手伝いいたします。

では、新スタッフから一言ずつご挨拶を!

三上昌子「九十四回の卒業生です。一月から若いセンタースタッフの中に加わって、久々の岡田山にまた新たな日々を迎えております。長年の経験が皆さんのお役に立てればと奮闘中。どうぞよろしくお願いいたします。」
井本彩子「本学の文学部総合文化学科を卒業後、グラフィックデザインの勉強をしていました。センターに毎日勤務していると、現場のモチベーションの高さを肌で感じます。スタッフとして、縁の下の力持ちを目指します。」

アウトリーチ・センターでは、地域さまざまな場での演奏や年三回の「子どもためのコンサート」の裏方、さらにアウトリーチ通信の発行を行なっています。興味のある方はぜひ、お気軽にセンターまでご連絡ください。



♪ 今後の予定 ♪

◎ アウトリーチ

7月 2日 (月) 神戸女学院中学部
9月 13日 (木) 神戸市立中央市民病院
11月 14日 (水) 神戸市立中央市民病院
12月 12日 (水) 西宮市立浜甲子園幼稚園

◎ 子どものためのコンサート・シリーズ

7月 7日 (土) セタコンサート
10月 20日 (土) スペシャル・コンサート
12月 8日 (土) クリスマス・コンサート

◎ ワークショップ

11月 15日 (木) ~ 23日 (金)
ギルドホール音楽院ワークショップ

第6号の訂正

前号のアウトリーチ通信(第6号)にて誤表記があり、
大変失礼いたしました。訂正して、お詫び申し上げます。

P.5 「養護学校プロジェクト」

誤) 片村文系校長
正) 紅山修校長

P.6 「吹奏楽プロジェクト」

誤) 柳井恵子先生
正) 柳井徳子先生

♪ 音楽をお届けします ♪

「音楽によるアウトリーチ」

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場にすてきな音楽のプログラムをお届けします。

♪ 小中学校へ：総合的学習支援プログラムとして、
子どものための楽しい体験学習を！

♪ 病院や美術館へ：催しの趣旨に沿った手作りの音楽
プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター

〒662-8505 西宮市岡田山4-1 TEL&FAX: 0798-51-8584

E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp <http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/>

編集後記

初めての編集作業。今まで読む側だったのが、作る側にまわり新鮮な気持ちです。(井本)

新しい年度と新しい履修生を迎え、心新たに頑張ります!(寺澤)

通信も第7号!今年度はどんなご報告ができるでしょうか…♪(中村)

2007年度もスタート!!来年の春に「成長したなあ」ってしみじみ思えるように頑張るぞー。(南)

今年度も1歩前へ踏み出して、みなさんと素敵な出会いがありますように。(三上)

セタコンサートに向けてがんばります!(綿田)

特色GPの補助金を頂いて3年目、今年度はじっくりと質的な向上をめざします(津上)